



補聴器装用指導

岡山大学
福島邦博

補聴器装用指導

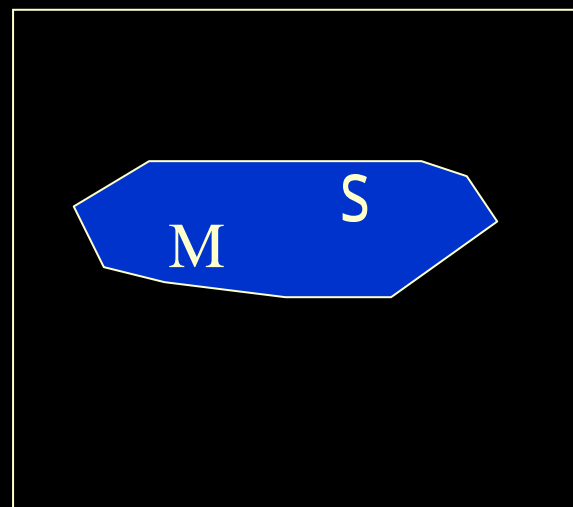
- **理解:**
 - 難聴とその対処法について
 - 補聴器の限界について
 - **認識:**
 - 障害の受容と認識
 - **取り扱い:** 補聴器の使用に関する指導
 - **指導:** コミュニケーション指導
-

The image features a vibrant, abstract background with a mix of warm colors like red, orange, and yellow, and cooler tones like green and blue. A large, solid black rectangular area covers the lower two-thirds of the image, serving as a backdrop for the title text. The title is written in a bold, yellow, sans-serif font. Below the title, a thin horizontal line of the same colorful abstract pattern is visible.

難聴に対する理解と受容

難聴についての理解

- 疾患としての難聴の説明
 - 難聴の障害部位についての説明
 - オーディオグラムから見た難聴の程度とパターン
 - リクルートメント現象
 - ダイナミックレンジ
 - 語音聴力の結果
 - 今後の難聴の見通し



聴覚障害についての理解

- Disorder Disability Handicap
 - Disability (障害)
 - 日常的な会話の障害 会議での障害
 - 学習の障害 職場での障害 など
 - Handicap (社会的不利益)
 - ひきこもり 家族の中での孤立
 - 退職 社会とのかかわりの低下
-

補聴器装用のゴール

- Disability レベルの問題を解決する
 - 語音の聴取を改善する
 - 環境音の聴取を改善する
 - Handicap レベルの問題を解決する
 - 就業時の状態を改善する
 - 就学時の状態を改善する
 - 患者のゴールと補聴器でできることの「すり合わせ」が必要
-



装用上の問題点を解決するために



取り扱いの問題

- 基本操作が可能かどうか
 - 補聴器の挿入・取り外し
 - スイッチのon / off
 - ボリュームを変えるなど
 - 適切なイヤーマールドになっているか
 - イヤーマールドにかぶれる場合
 - ハウリング
 - 電池交換は可能か
-

補聴器周辺の傷のチェック

チューブが短すぎる場合



イヤーマールドによる傷

チューブが長すぎる場合

補聴器の手入れ

- 定期的に拭き掃除をする
 - イヤーモールドは時々石鹼水で洗う
 - 夜は電池を抜き、乾燥剤を入れた箱などにしまう
 - 耳栓に耳垢がついている場合にはブラシなどで掃除する
 - 2日以上保管する場合には電池を抜く
-



よりよい音で聞くために



馴化 or 再調整

- 新しい音に慣れるために時間がかかる(馴化)
 - 以前には聞こえなかった新しい音を使いこなすには数ヶ月の期間が必要
 - 「音がうるさい」という訴えがあった場合には、補聴器を再調整するか、馴化を待つかのどちらかを選択する。
 - 「音がうるさくない」ことは安定して補聴器が使えることの第一歩なので、必ずきちんとした対応が必要
 - 最初は中間的な調整を行い、次第に理想的なフィッティングに変更していくこともある。
-

音質

- 高音が強すぎるときの表現
 - かん高い、シュウシュウいう、金属的な、鋭い
 - 低音が強すぎるときの表現
 - ふさがった感じ、こもった感じ
 - 音質の基準は
 - 明瞭度、快適さ、自然さ、心地よさ
 - 患者がどういうものを好むか
 - 長い間高音が聞こえなかった患者に無理して高音を入れても好まれないことが多い
-

Situations to experience and practice (STEP法)

- 1日2時間以内、少なくとも30分の装用
 1. 自宅で相手の顔を見ながら
 2. テレビを見たり、ラジオを聴く
 3. 顔を見ないで話を聞く
 4. 静かな場所で2、3人で話をする
 5. 騒音のある場所で2、3人で話をする
 6. 騒がしいレストランで話をする

STEP法の利点

- 補聴器装用に前向きになる
 - 「行動は信念に作用する」
 - さまざまな状況によって補聴器の有用性が異なることを実感できる
 - 特定の条件で補聴器が使えなくても補聴器をあきらめないですむ
 - 「装用感」に慣れるための時間ができる
-

どの時期に再評価するか？

- 文献的には、補聴器装用の満足度は装用後2週間から3週間後がもっともよい
 - それ以後は、補聴器の限界がより気になるようになって来る。
 - 調整後6週間で、補聴器の評価はほぼ一定する。
-

簡単に評価するには

- 聴力検査室で向かい合う
 - 紙をくちやくちやにする
 - 机をたたく
 - 口元を隠して単音の聞き取り
 - 復唱させる
-



装用後指導のためのポイント



コミュニケーション指導

- 話題を知る
 - 相手の唇、顔、身体を観察する
 - 意味を推測し、確認のため質問する
 - 騒音をなくす
 - 聞きやすい側を有効に使う
 - 職場の上司に相談する
-

聞き取りの戦略

- 具体的には個々のニーズが異なる
 - テレビを見ているときに夫婦で会話をしたい
 - もっと近くに座る
 - 証明の位置を変えて口を読みやすくする
 - 指向性マイクを使う
 - 会話するときにリモコンでテレビで音量を下げる
-

評価のための問診事項

■ 装用前

- 病歴と難聴の程度の評価
 - PTA, Speech audio, SISI, UCLなどを含む
 - 耳鏡検査
 - 聞こえの必要性の評価
 - どのような場面で聞き取りをしたいか
 - 補聴器の期待度の評価
 - 実現可能な目的であるかどうか
-

評価のための問診事項

- 装用直後
 - 操作可能であるかどうか
 - 取り外し、電池交換、スイッチなどの確認
 - 一般的な話声での聞き取りの検査
 - 音質の主観的評価
-

直後の指導内容

- STEP法について説明
 - 必要に応じて補聴器の使用法について説明
 - 補聴器の手入れ法について説明
 - 電話の仕方を説明
-

装用後の問診事項

- 補聴器の使用頻度、時間、利点、問題点
 - 「うるさくないかどうか」
 - 周辺の音は？自分の声は？ハウリングは？
 - 「はっきり聞こえるかどうか」
 - 耳介・外耳道の炎症の有無
 - 当初抱えていた問題がどの程度改善したかを確認する。
-

装用後の指導内容

- STEP法の説明(再調整も行う)
 - 適切な聞き取りの戦略、コミュニケーションの戦略を説明する。
-

補聴器の成果は

- 不可能なことを減らすこと
- 社会参加の制限を取り除くこと

- 使い勝手の不便さ、美容上の問題
- うるささ、言葉の不明瞭さ

- 満足度